



本のコーナーらしい。

ランドセルを背負ったまま、悠人はずんずん中に入っていく。

いまの学校は、より道にはきびしかっただろうか。規則はどうだったかなと考えていると、悠人の姿が見えなくなっていた。

竜司はあわてて本棚のあいだをさがした。ここはまるで迷路で、見失うとやつかいだ。竜司は急いであたりを見まわした。470というプレートがついた棚のところに、

悠人はいた。数字の下には植物学と書かれている。

「やっぱり植物図鑑だね」

悠人は棚に目を走らせながら、せっせと本をぬきとっていく。本がたまると、テーブルと椅子のあるコーナーへ運んでいった。竜司はだまつてついて行った。

「これだけあれば、きつとわかるよ」

そう言うと、さっそく悠人はページをひらいた。

竜司はポケットから実を取りだして、悠人の目の前に置いた。

「この図鑑はどうも調べにくいな」